



宮司ブレス 第百八十五号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和四年三月 十二日

◇宮司の柴田です。春光しだいに地に満ちて、日ましに暖かくなりました昨今です。先月の下旬の早朝の冷え込みが、うそのようです。実は、昨年十月に、左膝蓋骨（ひだりひざがいこつ）骨折で、入院加療（にゆういんかりよ）を余儀（よぎ）なくされました。今年に入り、先々月の十一日より、神職として本来の奉仕の姿である、正座（せいざ）にて御奉仕できるとなりました。 宮司ブレス既刊号（きかんごう）にも記述（きじゆつ）しました（きかんど）にも記述（きじゆつ）しました

しおん」の季節です。この「三寒四温」という言葉は、日毎に春めいてまいる日々のことです。ありますが、少しずつ物事がよくなっていくことにも例（たと）えられるのではないかとも思っています。

◇「シビアアクシデント」、あるいは、「神も仏もない災害」といわれた、東日本大震災さらには、福島原発事故より十一年を迎えました。過日、復興祈願祭（ふっこうきがんさい）を齋行（さいこう）させていただきました。 「休眠打破（きゆうみんだは）」という言葉がありますよ

去年よりもまして美しく花を咲かせます。 そのように、「キヤッチアップ」、「もとほる」、元どおりはもちろんです。前よりもよくなることをお祈り申し上げます。 壊（こわ）された住宅や建物、道路さらに、鉄道、海岸の防波堤（ぼうはてい）等のインフラの整備は、着々と復興されています。しかし、原発は、地下水の海洋放流や廃炉（はいろ）等、二十年三十年先も見通せない状況です。大切な住まいや美しい故郷（ふるさと）である「まほろば」、さ

らに、かけがえのない命を奪われた被災者の方々の「グリーンケア（悲嘆からの回復）」は、いつ終わりを告げるのでしょうか。◇今、私共は、「災間期（さいかんき）」を生かされて生きていくのだと思います。被災者の「グリーンケア」に寄り添いつつ、無念の思いを継承し、次なる災害に備えなければならない、それが、「災間期」です。そして、その「災間期」を生き続けていく私共に、そのことが、課（か）せられているような気がします。

早朝の冷え込みは、古傷（ふるきず）を容赦（ようしや）なくいたぶり、違和感どころか痛みも伴いました。 寒暖（かんだん）の差や、湿度によって古傷をいたぶってくれる季節の移ろいは、私を、転倒した時の「初心」にかえしてくれるのです。 「してもらう幸せ」で、骨折が、ここまで回復したのですから、「してあげる幸せ」で満たされるようつとめてまいらねばと、思いを新たにさせてくれた、二月下旬の冷え込みでした。 今、まさに、「三寒四温（さんかん

去年よりもまして美しく花を咲かせます。 そのように、「キヤッチアップ」、「もとほる」、元どおりはもちろんです。前よりもよくなることをお祈り申し上げます。 壊（こわ）された住宅や建物、道路さらに、鉄道、海岸の防波堤（ぼうはてい）等のインフラの整備は、着々と復興されています。しかし、原発は、地下水の海洋放流や廃炉（はいろ）等、二十年三十年先も見通せない状況です。大切な住まいや美しい故郷（ふるさと）である「まほろば」、さ

◇それから、忘れてはならないのが、実は、「戦間期（せんかんき）」をも生きているのだということ。地球人類の有史（ゆうし）以来、争いや紛争（ふんそう）、いわゆる戦争が、全くなかった時間を合計しますと、二百年間しかないそうです。今年、わが国は戦後七十七年となりますが、この時間は、とても尊（とうと）く貴重な時間です。しかも、四百万人というかけがえのない命と引き換えに得られている時間なのです。大切にしなければなりませんし、今、ウクライナで起きている惨禍（さんか）にも目を背（そむ）けてはならないと思います。ガソリンや日常生活の不可欠なものの値上げ等の影響が出てくるそうですが、何とか耐（た）え忍（しの）び工夫をして暮らしていくことが、ウクライナの人々との共生につながるのではないかと思います。 「随所主作 立

所皆真(ずいしよしゆとなれば りつしよみなしんなり)、「今、与えられたことに全力を尽くしなさい、そうすれば、必ずすべてうまくいくよ」という意味です。うまく事が運ぶことを願い、今、与えられたことを完遂(かんすい)するしかないのではないだろうか。

◇既刊号(きかんこう)にも何度か記述(きじゆつ)したことがあります、私は、「三寒四温」を「三感四恩(さんかんしおん)」と置き換えています。「戦間期」さらに「災間期」を生きている私共、今ある命に、「感謝」をし、身のまわりにおこる何気ない出来事にも、心から感謝し、心にしみこませ、寄り添って生きていく。「涵養(かんよう)」、そして、目に見えない神様大自然、産んでくれた親、御先祖様、生かされている社会、導いてくれたその道の先達(せんたつ)師匠(ししょう)である師(し)、「神様」「親先祖」「社会」「師」の四つの恩に報いるように生きていく、これが、「三感四恩」です。四つの恩に報いるように生きていくことこそ、前述(ぜんじゆつ)の「随所主作」であり、そうすれば、「立所皆真」となるのではないでしようか。

◇これから、「三感四恩」の生活を心がけられ、季節の移り変わりのように、少しずつ良くなっていく、コロナ禍の前に、「もとほる」、元のとおりとなる日々でありますようにお祈り申し上げます。

上げます。

◇二月の祭典行事予定(報告も含む)

▼月次祭 *二月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 *二月一日

▼節分祭 *二月三日

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により二年連続「豆まき」中止、「福豆配り」、有志による「恵方巻」販売

▼紀元祭 *二月十一日

▼祈年祭

※本宮 彦島八幡宮 *二月十七日

※六連島八幡宮 *二月二十五日

※田の首八幡宮 *二月二十七日

▼朝粥会 *二月二十一日

▼花手水実施 *二月三日〜二月十五日

◇二月の宮司動静予定(報告も含む)

▼山口県神社庁関係

□神社庁例祭、役員会 *二月十三日

□神社庁支部長事務局長会議 *二月十四日

□巡回祭典後講話研修会 *二月二十二日

▼人権擁護委員会

□常設人権相談 *二月十八日

▼学校関係、その他

□西山小学校CS *二月十日

□玄洋中CS *二月十四日

□迫町自治会役員会 *二月十六日

◇三月の祭典行事予定

▼月次祭 *三月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 *三月一日

▼神宮写真展

*三月一日〜九日、会館にて開催

▼花手水実施 *三月一日〜三月十三日

▼東日本大震災復興祈願祭 *三月十一日

▼南風泊恵比須神社例祭 *三月十五日

▼朝粥会 *三月二十一日

▼春季祖霊祭 *三月二十一日

※家の宗旨(しゅうし)が、神社神道の方

の合同の霊祭(みたままつり)

◇三月の宮司動静予定

▼山口県神社庁関係

□神社庁教化委員会、祈年祭、神宮大

麻増頒布推進委員会 *三月七日

□全国教化会議オンライン会議

*三月十四日

□下関支部神宮大麻頒布終了祭、総代敬婦

役員会 *三月十七日

□神職養成講習会講師打合*三月二十三日

□教学研究大会 *三月二十三日

□祭式研修会 *三月二十五日

□臨時協議委員会 *三月二十九日

▼自治会、学校関係

□彦島まちづくり協議会 *三月二日

□西山小CSあいさつ運動 *三月十日

□自治会役員会 *三月二十三日